

第 22 回 国際協力セミナー議事録
「ホームレスが自立するために、我々が出来ること」

セミナー概要

日時：2010年6月22日（火）18:00～20:30 （懇親会 20:30～21:30）
場所：東京大学 柏キャンパス 新領域創成科学研究科 環境棟 7F 講義室
参加者数：20名

講師

佐藤えり子氏（BIG ISSUE 日本）

略歴：2008年9月よりビッグイシューにて勤務。

路上生活者が、ビッグイシュー卒業するまでのプロセスに関わり、自立・就労応援を行ってきた。（登録者受け入れ人数：300名以上） 現在、厚生労働省主催『生活保護受給者の社会的な居場所づくりと新しい公共に関する研究会』委員をつとめる。

岩瀬遼：BIG ISSUE インターン生

高橋さん：元 BIG ISSUE 販売者



アウトライン

本セミナーは、佐藤氏からのホームレス問題についての概説から始まった。その後、岩瀬氏から有限会社ビッグイシュー日本の取り組み、NPO 法人ビッグイシュー基金の存在や行政・民間からの支援についての説明を受けた。

また、元販売者である高橋さんの話が始めると、普段の研究生活では得られない生の情報を耳にした学生達は、感嘆の声を挙げていた。

座学に時折グループワークを挟みながら、聴講者参加型のセミナーが進み、始まった当初流れていた硬い雰囲気も徐々にほぐれ、意見も活発に交わされた。

セミナーの後は懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、参加者の間ではホームレス問題についての意見を交換しあう様子が見られた。

<議事>

1. ホームレス問題概説（佐藤さん）

国際協力と国内のホームレス問題は、世界が違ってもよいかもしれない。しかし、貧困・難民などの国際問題も、ホームレスなどの国内問題も、解決のために協力し合えるアクターをどれだけ増やしていけるかが重要である、という点は共通している。アクターの増加・協力的なしには、どちらも解決は難しい。

最近では若者のホームレスも急増しており、我々も全く関係のない話ではない。

1.1 グループワーク「ホームレスとは何か？誰か？」

○各グループで挙げた回答例

- ・ 「ハウスレス」でなく、「ホームレス」である理由を考えると、ホームレスとは家がないことだけでなく、家族と何らかの事情で関係性が絶たれてしまっている人のこと。
- ・ 内面は、仕事がない・人生が辛い等の理由から、俗世間を離れたいという気持ち。
- ・ 撤去されない家がない。
- ・ 家や寝る場所が無い人。住所が無い人。（ネットカフェ難民は、寝る場所はあるが、住所がない）
- ・ 「浮浪者」とは、定着していないこと。職や家が一定の場所に落ち着いていない人を指すのではないか。

○佐藤さんからのフィードバック

強制退去でなく、渋谷の宮下公園のように公園の土地所有者を他に移譲してしまうことで公共の場を私有地化し、社会的弱者を排除してしまう問題。しかし、ホームレス問題は自己責任論でなく、社会構造の問題だと思う。

1.2 ホームレスの定義

- ・ 日本とアメリカは、「ホームレス」のコンディションのみを述べ、イギリスは、コンディションに陥る理由まで含めた広い定義をしている。
- ・ イギリスでは、1976年にホームレスの定義をしている。言葉の定義がなければ、対策や政策を提言ができないため。「Homeless」と「Rough Sleeper」を分けている。
- ・ 日本では抜本的なホームレス問題の対策が行われていない。その理由は、社会の偏見が強いことと、ホームレス・ハウスレスについてのきちんとした定義がないことであるだろう。

1.3 各国のホームレス事情

[英国]

- ・ 多様なアクターによって福祉の実現を目指す。
- ・ 住居法によるホームレスの定義。
- ・ ホームレスの管轄は、自治体住宅部局。

[日本]

- ・ 日本のホームレスの人数は厚生労働省により 15,759 人とされるが、調査方法は、昼間の目視。しかし、23時～24時の間にしないと、ホームレスは寝床には帰ってこないため、実数が反映されていない。ホームレスの方は居場所の流動性が激しいことから、実数把握が難しいという問題もある。

1.4 グループワーク「カフカの階段理論において、四つの階段とは何か？」

各グループ内で挙げた回答例

- ・ ①職と収入、②住むところ、③関係性、④希望がなくなる等の精神面
- ・ ①住所、②仕事、③お金、④頼れる人、信用。
- ・ ①自信・信頼、②保証人、③金、④家、仕事。

佐藤さんからのフィードバック

精神的な問題は、今後重要視されてくる。国際協力も同じだろう。また、壁を登るには、ハード・ソフトな技術が必要であり、パソコンなどのスキルや資格、家を借りるための保証人や、ハローワークに登録するための住所、初任給までの生活費などを全てクリアして、初めて一段上がれる為、とても難しい。



1.5 元販売者の高橋さんのお話

高橋さんは、今年の6月3日までBIG ISSUEの販売を神田駅東口で行っていた。

今年の初めまでは、池袋で会社員として仕事をしていたが、人間関係に嫌気がさし、何もしたくないという気分になり、新宿中央公園へと向かった。

公園で寝床を探し、一週間ホームレスと一緒に炊き出しをまわったが、炊き出しのスケジュールに合わせて徒歩で移動するのはハードスケジュールな上に、炊き出しの味は良くなかった。

そんな中、BIG ISSUEの販売者と出会った。BIG ISSUEを販売し、お金を稼ぐことで、自分の好きに出来るお金を得ることが出来ると考え、販売を始め、徐々に常連客が増え、やる気が起き、人と話すことにも楽しみを覚えるようになった。

現在は、自分のやりたいことが見つかったため、BIG ISSUEの販売をやめて、そのための準備をしている。

○佐藤さんと高橋さんの一問一答例

佐藤さん：どのようなお客様との関わりが印象に残っているか。

高橋さん：販売当初、OLの方は見ていくだけで買ってくれなかった。しかし最終的にはOLの方の購入者が7割を占めるようになった。購入してくれた人の一部とは現在でも連絡を取り合っており、BIG ISSUEの販売を始めたことで、人とのつながりのすごさを感じることができた。

佐藤さん：将来に向けてどのようなことを考えているのか。

高橋さん：料理が好きなので自由に料理をやってみたいが、その前に農業をしたいと考えている。農業をし、自分で作った野菜で何が作れるかを考えて料理をしたい。そこでボラバイト（ボランティアバイト）を始めようと思っている。BIG ISSUEの販売ではお金がたまらず、食事をするので精一杯なため、本気でアルバイトをしてそのための資金をためようと考えている。

2. (有) ビックイシュー日本についての説明 (岩瀬さん)

2.1 BIG ISSUE 概要

創設者はジョン・バードであり、理念は self help。働く意欲を持っている人に、働く機会を提供することが目的。

「施しを受けるのではなく、自分の力で自立、お金を得たい」というジョン・バード自身のホームレス時代の実感から、self help の精神が生まれた。

2.2 販売のモデル

- ① ホームレスの方は、吸殻を拾って吸ったり、ゴミをあさったりする生活で自尊心がボロボロの状態です。事務所にやってくる。
- ② 今までの経緯や仕事等のヒアリング。行動規範に同意すれば、販売者登録できる。最近では毎月約 10 人が新しく登録。(相談はもっと多数)
- ③ 10 冊が無料で配布される。
- ④ 販売の経験ある人は少ないが、販売サポートのインターン生たちが、売り場の作り方や売れる方法を一緒に考える。1 冊目が売れると、しり込みしていた販売者も頑張っていく気持ちになれる。

3. NPO 法人ビックイシュー基金についての説明 (岩瀬さん)

生活応援、就業応援、文化・スポーツ応援の 3 つのプログラムを三本柱としている。

生活応援プログラム

健康相談や法律相談、金銭管理相談など、普通の暮らしや働くリズムを回復し、人や社会とのつながりを取り戻すことを応援する。

就業応援プログラム

就業への不安などについての相談をうけ、就業応援プログラムや体験の場の提供、仕事の紹介や開拓、就業後の継続的なサポートを行う。

e. g. 面接や履歴書の書き方の指導。コンピュータの使い方に関する講座の提供。

文化・スポーツ応援プログラム

販売者による同好会活動やダンス・音楽・サッカーなどのクラブ活動やイベントの開催を応援。他者とのつながりの場となるユニークな取り組み。プログラムを通し、信頼感、連帯性、自尊心などが生まれる。

4. 行政・民間からの支援についての説明（岩瀬さん）

BIG ISSUE は、経済産業省による「ソーシャルビジネス 55 選」に認定されている。都道府県では支援状を発行し、活動を知ってもらう。企業や民間団体との協力や支援も行われている。大学とのコラボレーションでは、大学生協でバックナンバーフェアや学祭での出張販売もある。

5. BIG ISSUE 日本のボランティア参加についての説明（岩瀬さん）

BIG ISSUE は依然として認知度が低く、何をしているのかわからないという人も多い。ボランティア参加を通して何をしているのか知ってもらうことが必要であり、積極的に行っている。

6. 質疑応答

Q1: イギリスではホームレスになる原因を含め、ホームレスを定義しているが、なぜそれがいいのか。

A1: 住む場所は確保しているが一緒に暮らせないなどの原因で、希望が叶っていない人もいる。そのような人もホームレスの一種と考えられるから。また、同性愛者のようにセクシャルマイノリティと一緒に住みにくいといった、選択のない人々も含まれる。

Q2: 登録したにもかかわらず販売者、卒業者に含まれない人が結構いるが、その人達はどういう状態の人で、なぜそうってしまったのか？

A2: 卒業には条件があり、全ての条件をクリアして卒業できる販売者は1割強しかいない。BIG ISSUE 基金がサポートし、卒業する人を増やそうとしているが、売れ行き悪いとドロップアウトしてしまう人は多い。収入が得られると期待していて販売を始め、平均販売数に届かないと、期待を裏切られたと考えてしまう人も多い。また、BIG ISSUE の認知度が低くいたために警察の対応が悪く、職質をかけられトラウマになるなど、地域や公共機関から理解されないことも原因の一つと考えられる。このような販売者のリスクのために、半数ほどはドロップアウトしてしまい、残り3割は生活保護を受けるなどしている。

Q3: 公園生活で炊きだし回りに疲れた時、日雇いの仕事などがあつたと思うが、なぜ BIG ISSUE を選んだのか。（高橋さんへの質問）

A3: どうやって金を稼ごうか考えたが、やる気がなかった時に、BIG ISSUE の販売者と仲良くなった。時間に縛られるのはいやだったが、BIG ISSUE は個人営業なのでいいと思った。

Q4: 販売者から見たBIG ISSUE の魅力は？（高橋さんへの質問）

A4: 人とのつながり。また、売れないと食事をすることができないので、自分との闘いでもある点。

参加者の感想例

- ・ リアリティのあるお話と最近の動向が特に価値のあるものでした。また、基金の面での活動は経済的機会と共に必要な人のつながりの回復の点ですごく意味があると思えました。それはホームレスになる背景に家族との関係があったり、人間関係から仕事を辞めたりということがあるため、その改善が重要だと思ったからです。
- ・ 上野でよくホームレスの方々を見ます。彼・彼女たちはどんなことを考えているのかと思っていましたが、今日、少しだけわかった気がします。仕事＝自尊心を養うための機会となっている BIG ISSUE の活動について知ることが出来て良かったです。
- ・ 現在の日本では、社会関係資本を築くことが難しい中で、BIG ISSUE の役割はとて大きいと思います。今後、私に出来ること、BIG ISSUE や BIG ISSUE の活動を通して考えていきたいと思います。
- ・ グループで実際問題を考えながら、ホームレスや BIG ISSUE について知っていく、という形がとても良かったです。ホームレスについての定義がないなど、改めて気づくことが出来て勉強になりました。また、(講師の)高橋さんのように、経験者のお話は大変貴重なので、わざわざ来て下さり、実体験を私たちにお話して下さったことに感謝します。

以上

第 22 回国際協力セミナー運営委員

総括コーディネーター：緒方亮介（湊研 M2）

司会担当：鵜籠絢子（池本研 M2）

菊池真理子（山路研 M1）

議事録担当：白川佑希（國島研 M2）

高橋雪子（山路研 M1）

写真・感想担当：菅沼安奈（堀田研 M2）

戒勇樹（堀田研 M1）

広報担当：大友陽平（山路研 M2）

懇親会担当：板倉雅也（國島研 M2）

遠藤百合子（堀田研 M1）

(注) 本議事録は国際協力学専攻湊研修士二年緒方亮介が全責任を有しており、ご講演頂いた内容と相違が生じている場合もあります。

質問、ご意見等ございましたら、k96788@inter.k.u-tokyo.ac.jpまでご連絡下さい。